

京都へゆうゆうの里へ入居者インタビュー

「まだまだ先でいい」のご主人が

一転して身辺整理に！

太田 計正様（78歳）・愛子様（75歳）



今回は、ご夫婦で入居された太田様夫妻をご紹介します。入居されてから一年半。ご夫妻は其々に里での生活を楽しんでおられます。検討を始めた当初、夫婦の意見が合わず、入居にたどり着くまでには紆余曲折がありました。

ご主人の

「なんとかなるさ」に愕然

「70歳を過ぎた頃から、シニア向けのセミナーや老人ホームの見学に出かけたりしていました」と、奥様は老後の備えに熱心でした。しかし、その度にご主人を誘っても、全く興味を示してくれません。あるとき、奥様が「私が介護になったらどうするの？」って聞いたたら、「なんとかなるさ」と返ってきた。そのときにはもう関心をもつてもらったのは無理かな」と諦めた

こともあったそうです。

ウォーキング三昧、ご主人の本音

一方のご主人は、学生時代から山登りが趣味。40歳代になり、お腹回りが気になりだした頃からマラソンにのめり込み、フルマラソンも幾度か走ったそうです。その仲間と歩こう会を立ち上げ、特に百キロ程度の長距離歩行のリーダーとして活躍していました。退職後は地域に奉仕するため、歩くことが苦手な方々を集めて、ウォーキングを生活習慣の中に入れてもらえるように、歩いて、観て、おしゃべりをして、心身とも健康になつていただけるような輪を広げていったそうです。そんなウォーキング三昧の日々でしたので、「老人ホームに住むなんて考えられなかった。というより、まだまだ先

のことだし、妻に任せておけばいい」というのが本音でした。



「ウォーキングの会」手前、手を上げているのが太田様

奥様の作戦奏功

ある時ご主人が、奈良へ古代史のツアーに行くとき、奥様は、京都ゆうゆうの里に泊まっていたら、近くでいいよと誘ったのです。実は奥様は、京都ゆうゆうの里に出会い、一目で気に入ってからのというもの、諦めきれず月1回のペースで通っていました。終の棲家と心に決めて時を待っていたのです。

初めて里を見たご主人は、「い

やあ、想像以上でした。里周辺には、ウォーキングしたい環境がいっぱいあって・・・、もう帰つてすぐに身辺整理を始めました。歩こう会も後継者に引継いで。決断したら早いですよ（笑）。」



箱根・金時山より富士山を望む

いろいろな会を立ち上げてきたご主人に、奥様は「ここに来たら、もう会は立ち上げないでね」という約束をお願いしたそうです。会は立ち上げなくても、ウォーキングの環境には事欠かないし、ライントコートから見上げる夜空の美しさ一つにも満足しています。昔の意見の違いがウソのようです。いつまでも仲良くお幸せに！